

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

自己点検・自己評価総括表

作成者:一尾二三夫

作成日:平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計):10

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

昨年度は「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について改善に取り組んできたが、その結果「適切」の評価割合が増加した。今年度も学校からの積極的な情報発信についてさらに改善を進める。

②今後の改善方策

平成29年3月に全教職員を対象にした研修会を実施し、学校の教育理念、年間計画について確認した。

学校からの情報発信の一環として担任と保護者の連携も兼ねて各家庭に担任による電話連絡を実施し、学校の教育方針や指導内容を保護者と共有することで相互理解を深めた。今年度もさらに継続して保護者との連携に努める。

毎日のホームルームを活用した担任教員による朝礼啓蒙、授業担当教員による授業内啓蒙、校長による講演啓蒙などの場を利用して学生への意識浸透を継続する。特に訪日観光客数が多い国の社会情勢や歴史、文化、風習、宗教観などを授業カリキュラムに取り入れ、学校として一層のグローバル化教育に努める。

③特記事項

接客業務を基本とする観光業界の現場ではビジネス基礎能力(コミュニケーション能力、協調行動力、自己管理能力など)が重要である。これに対応するため、目指すべき業界人像を定義し、学生から引き出す能力を明確に定め、さらに学園独自の検定試験制度を組み合わせることにより学生への定着を図っている。

社会構造や業界ニーズの変化に対応した学校の在り方や新カリキュラムの検討を行った。急速に進行する少子高齢化、グローバル化、IT化に対応できる人材を輩出し続けるための対応策であるが、この議論の過程で各学科コースの目標とする業界人像を以下のように定義した。

【学科コースごとの目指す業界人像】

- ・国際ビジネス:国際センスを備えた「一流のビジネスパーソン」
- ・ホテル:世界に誇れるおもてなしを身に付けた「一流のホテルスタッフ」
- ・ブライダル:人生最高の一日を演出できる「一流のブライダルスタッフ」

自己点検・自己評価総括表

【平成29年度実施計画】

- ・専門科目の授業を通して業界英単語を学ばせる工夫→海外行動力検定
- ・英語によるビジネスマナートレーニング
- ・社会情勢および時事教育の強化
- ・業界の新しいビジネスモデルの企画と業界へのプレゼンテーション
- ・海外研修の充実

これら学校側の取組内容は学生だけでなく保護者や就職先企業、また入学希望者や高等学校に対しても学校案内書、ホームページなどを通して積極的に広報している。学校説明会、体験入学会、保護者説明会においても新時代に対応する学校の取り組み姿勢を説明内容に加えている。

時代の変化に対応するカリキュラム改革について全教職員で意思統一するため職員研修を実施している。学生に対する説明方法に食い違いが生じないように内容を統一した。さらに広報委員会と連携して入学希望者や保護者に対する説明方法の研修も実施している。

学園独自の検定試験として自己管理能力検定、協調行動力検定、IT活用力検定、海外行動力検定を学園全体で開発導入した。これら検定試験を活用して学生の職場の基礎能力アップを図っている。

名古屋大原学園では年度単位の学園学校運営計画書を策定しており、その中で学園全体の教育目標として

- ①早期大人化教育：精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成、
 - ②学科の専門教育：資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成
- を掲げている。この教育目標に基づいて教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを本校の教育方針として定めている。

全教職員は本計画書を所持しており、毎週月曜日に実施する教職員全体朝礼において教育目標の確認、および計画項目の進行状況を確認している。これによって教育目標および教育理念の教職員への浸透を図っている。なお本計画書は学園長・理事長・校長により毎年度末に見直しが行われ、現在は平成29年度版に改訂されている。

自己点検・自己評価総括表

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、現在学生管理（成績管理、出欠管理など）システムの更新作業が進んでおり順次稼働が始まっている。新しい出欠管理システム、成績管理システム、証明書発行システムなどを活用した一層の業務効率化を進めていく。

②今後の改善方策

新しい学生管理システムの円滑な導入と運用に向けた職員の勉強会を実施し、業務効率化を一層進める。

③特記事項

教育目標として掲げた①早期大人化教育、②学科の専門教育、およびカリキュラム改革計画に基づいた具体的な事業計画は平成29年度学園学校運営計画書の月次遂行項目として策定されている。また各項目の実行責任者と学園全体組織図が明示されており、学園長・理事長・校長・部長などの指示命令系統、および全体の組織運営、意思決定、報告連絡相談系統は明らかである。

学園理事会・評議員会とも適時適切に開催され、学校運営状況は随時報告されている。また議事録は適切に作成管理されている。学校職員に対しては人事給与に関する項目を含む「就業規則」が明文化されており、関係法令の改正に伴って適時改正を行っている。消防計画、学校安全計画は整備され、教職員の役割担当が明示されている。

具体的な教育活動の内容については学校案内書、学校ホームページを通して関係業界や地域社会、入学希望者等に向けて最新情報を発信している。学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドライン等に従って適切に公開している。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、利害関係人が財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の閲覧が出来るように情報公開の場を設けている。

自己点検・自己評価総括表

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

ただし「⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」、「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」では改善の余地があると心得て、特に教員の指導力向上に継続的に取り組む。

自己点検・自己評価総括表

②今後の改善方策

昨年の学校関係者評価委員会からは「一般論として採用面接試験においてコミュニケーション能力が不足する学生が多いように見受けられる」との指摘があった。特に当校の学生に対する指摘ではなかったが、日本語による基本的なビジネストーク能力強化を推進し、コミュニケーション能力向上に努める。

毎月1回の定期的な教員研修会を実施し、業界を取り巻く最新情報、業界が学校に対して求める人材像、必要なスキルなどを情報交換する。また社会情勢、時事問題に精通するための勉強会も同時に実施する。さらに専門科目以外の資格取得奨励とこれによる業務範囲拡大を目指し、学生に対して幅広い指導ができるよう体制づくりを継続する。

③特記事項

情報端末を活用した新たな営業手法やプレゼンテーション企画などを提案できるビジネス能力養成、また環境変化に対応できる柔軟なカリキュラム編成を目指し、授業科目として「企画プレゼン」を設定した。各業界が直面している問題点の把握、解決への企画作成、プレゼンテーションに取り組んでいる。業界関係者に向けての発表会を実施し、厳しい指摘を受けながら更なる企画力向上を目指している。

学園長主催による定期的な人間学読書会や自己研鑽研修制度を通して教職員としての品格保持を推進している取り組みが学校関係者評価委員会から評価されている。今後も校長が先頭に立って積極的に研修制度に参加する姿勢を示す。

教育理念・教育目標に基づいて教育課程を編成している。これは学則に「教育課程表」として明示されており、合わせて修業年限や授業時間数が規程されている。カリキュラムや使用教材は毎年見直しを実施し、シラバス(授業計画表)に基づいた授業を行っている。また校長による授業聴講、教員同士による相互授業聴講を毎年1回実施しており、カリキュラムに沿った授業が行われているかを点検している。

資格試験直前期には補講の実施により合格率向上を図っており、一時的に能力別クラス編成を実施して学生の理解度レベルに応じた対応を工夫している。公的な資格試験以外に学校としての中間試験と期末試験を実施しており、成績評価、進級・卒業に関しては厳密に審査判定している。

ホテル・ブライダル関連の企業団体等との連携により、実践的な職業教育を実践している。業界における実務担当者が担当する校内授業や、学生が企業現場に出向いて実際の業務を体験する授業などをカリキュラムに組み込んでいる。

全学生にタブレット型端末機を配付し活用推進を図っている。従来型の教室授業だけでなく、タブレット端末を活用したインタラクティブな授業を織り込み、学生の理解度向上に繋げる取り組みを続けている。また学生手帳の活用により自己管理能力を高め、授業時間以外での復習時間確保や自己到達度管理などを推進している。これらの相乗効果により合格率の向上、不合格者の減少を図っている。

自己点検・自己評価総括表

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。

評価項目のうち「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」について改善の余地はまだあるものと心得て引き続き改善を継続する。

②今後の改善方策

開校から24年が経過し、業界の企業・団体で管理職クラスとして活躍する卒業生が多数いる。これら卒業生を業界で活躍する先輩として学校に招き、業界の様子や仕事のやりがいなどを授業として在校生に語ってもらう「OB講演会」を実施している。

この取り組みは卒業生の社会的な活躍やキャリア形成への効果を学生が直接確認できるの貴重な機会であり、今後も継続実施する。

③特記事項

クラス担任制度を採用しており、担任と学生の信頼関係に基づき学習相談、進路相談、就職相談が行われている。また校長や部長も担任をサポートし、学校全体で指導体制を構築している。これにより合格率就職率向上と退学率低減を図っている。

就職活動に際しては就職サポート室担当者と担任が連携し学生の進路相談やカウンセリングを行っている。

学校に寄せられる求人情報は就職サポート室が一元管理している。求人情報はファイリングした上で就職サポート室にて自由に閲覧できるほか、企業データベースに登録されるので学生はいつでも学内ネットワーク上で検索閲覧可能である。

就職サポート室担当者は2種類の企業訪問を実施している。1つは新規企業に対する求人開拓のための訪問で、学生の新規採用を積極的に働きかけている。もう1つは就職内定先企業への訪問で、内定者が卒業までに取得すべき資格や能力についてヒヤリングし、卒業までのカリキュラムに反映させている。また卒業生の仕事ぶりなど評価についても聞き取りを行っている。

卒業生から得られる最新業界情報に基づいて授業内容を調整し、ビジネス最前線に則した教育内容を保持するよう努めている。

学生との相談内容(カウンセリング内容)を記録に残し、担任、学科長、校長が情報を共有することにより学生への対応を手厚くする。これにより対応が難しい学生を担任一人で抱え込むことを防いでいる。

自己点検・自己評価総括表

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、昨年の点検結果と大差なく、大幅な改善は見られなかった。

今年度は点検項目のうち「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」を重点項目として改善を進める。

②今後の改善方策

従来より担任と保護者との連携は図ってきたが、学生の保護者に対して定期的に担任からの電話連絡を行い、家庭と学校の情報共有を促進し相互の信頼関係を強化する。また家庭との連携を通して、学校の教育理念や教育内容に対する理解を深めることも目的とする。

クラス担任と学生との面談回数を増やし、学生個々の特徴や背景を理解することに努める。

③特記事項

学校関係者評価委員会ではクラス担任制による学校運営が評価されており、今後も学生・クラス・教師の三者関係を大切にして、信頼関係を保ちながら教育活動を継続する。

学園独自の学費分納制度も高く評価されたが、入学後に経済的事情で学費納入困難に陥り中途退学に至る学生への配慮が指摘された。担任からの情報に基づき部長、校長が連携して個別事情に対応し、総務経理室と連携して特別分割納入を認めるなどの個別事情に応じた対応を図っている。

自己点検・自己評価総括表

就職指導では、担任と学生との間で企業研究・自己考察・履歴書の書き方・自己PR・志望動機の内容などを確認し積極的な就職対策を実施している。一方、キャリアサポート室は求人先企業の開拓はもとより、学生に対して求人情報の提供、模擬面接の実施等、具体的なサポートを行なっている。また、就職先が内定した2年次9月以降は職種別にクラス編成を行い、入社2年目レベルを目指した実務教育を実施している。

学費の減免措置（資格特別奨学生制度、試験特別奨学生制度など）や学園独自の低利による教育資金融資制度は、入学を希望する学生や保護者、高等学校からの評価も高く利用者が多い。近年、経済的理由から入学を断念あるいは退学を余儀なくされるケースが目立ってきているため、学園全体で月払い学費分納制度の取り扱いを開始した。従来からの学費支払方法であった半期ごとの納入利用者には減少し、月払い分納制度の取扱希望者が増加している。

野球部、サッカー部、卓球部、ブラスバンド部など多数の部活動が存在するので、これに参加する学生は多い。通常のクラスを離れ、学年や学科を超えた交流の場となっている。

遅刻日数や欠席日数が規程数に達した場合、担任から保護者に電話連絡を入れている。特に自宅外通学をしている学生の保護者とは連絡を密にし、健康管理や生活習慣に目を配っている。

自己点検・自己評価総括表

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

海外行動力の育成を目指して団体ツアー型海外研修旅行を脱却した新しい海外研修旅行(Guam)を企画実施した。一定の成果が得られたが、反省点を踏まえて引き続き新しい海外研修旅行を企画開発を継続する。

②今後の改善方策

今年度も海外行動力を育成する海外研修旅行を12月に予定し、これに向けた準備を4月から授業に取り入れて学生の事前知識を高めて渡航できるよう進める。さらにこの研修旅行の経験をその後の就職活動に連動できるような研修内容とする。なお、海外研修旅行の実施に際しては最新の国際情勢に注意し、安全確保に万全を期す。

③特記事項

近隣の日本語学校に在籍する外国人留学生との交流プログラムが実現し、交流を通して語学や異文化に興味を持たせる取り組みを継続している。普段外国人と直接接する機会が少ない学生にとって良い刺激となっている。プログラム内容について、日本語学校側の意見も聞きさらに改善を進める。

学生の自主的な海外旅行を支援するため、海外旅行支援制度の利用を推進している。条件を満たす旅行を学生が自主的に実施した場合に旅行代金の一部を補助する制度で、毎年多くの利用実績がある。この制度を活用して学生の海外行動力を高めている。

専修学校設置基準に照らして講義室、実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。また実習設備として各学科に応じた教育用機器備品を揃えている。講義室、実習室とも授業後は施錠することを基本としているが、学生の希望があれば自学自習する教室として開放している。なお学生ホールは終日解放しているので学生は平日20時までは自由に利用できる状態である。また休日については社会人講座用の自習室を利用できるようにしてある。

保健室は整備している。図書室と呼べる独立した部屋は整備していないが、校内廊下の随所に「図書コーナー」を設置し、各分野の専門図書、業界専門誌、一般教養誌などを置いて学生が自由に手に取れる環境を用意している。教員室および事務室の管理は適切に行われている。

一般の講義室でもパワーポイントを活用した授業が行われるので、プロジェクターやスクリーンなどの設備が欠かせない。さらに平成25年度からはタブレット型端末を活用した授業も始まったので、より視覚的な授業を行うため全教室へのプロジェクター設置を完了した。さらにインタラクティブな授業を展開するために「電子黒板」の導入している。消防計画、学校安全計画は整備され、教職員の役割担当が明示されている。

ホテルや結婚式場は流行に左右される業界であるため、学内常設設備は必要範囲を限定し、最新設備は提携先企業の設備を使った実地研修を実施している。教室は学生自身による教室清掃が行き届いており、快適な学校環境が維持されている。

自己点検・自己評価総括表

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0

①課題

自己点検では「適切」～「ほぼ適切」の評価であるが、現状で入学者数は募集定員に達していない。より多くの入学者獲得のため、さらなる工夫が必要である。

②今後の改善方策

学内に設置した広報委員会は、学校が進める教育改革を入学希望者や保護者に分かりやすく説明する方法を開発している。教職員全員がこれを活用して教育成果を正確に伝えられるよう努める。

学生に対する経済的支援策として、学費の一部を減免する奨学生制度や月払い分納制度を整備している。これら支援策を積極的に告知して入学者増加を図る。

またホテル・ブライダル科は厚生労働省の教育訓練給付制度「専門実践職業訓練給付金」の支給対象に指定されているが、この制度を利用した入学者はまだいない。広報部署と連携して該当者に対する告知策を進める。

③特記事項

学生募集のための入学案内書を毎年制作している。学校の基本情報はもちろん、学科ごとのカリキュラム、資格合格実績、就職実績、校内イベントなどの情報並びに学校説明会や体験入学会の開催日程を掲載している。また学費や入学手続き方法を明記した募集要項も綴じ込んである。入学案内書に掲載した情報に基づいてホームページ掲載情報を毎年更新している。代表的なQ&Aを掲載するとともにメールによる質問対応を行い、志願者の学校選択を応援している。募集開始時期、入学者選抜時期、方針、方法については愛知県専修学校各種学校連合会の指針に従って適切に行っている。

教育成果として資格試験の合格率、就職内定率などの合格実績を表示するときは、必ず集計範囲や分母分子数を明示し、誤解や錯誤を与えないよう配慮をしている。学校説明会や体験入学会においては教職員とともに在校生が入学希望者に対応している。在校生が体験に基づく丁寧な説明をしているので、入学希望者には好評である。

学納金の額は妥当な金額と考えるが、中途退学者の多くが経済的理由による学費納入困難を挙げており、学校としても奨学生制度など経済的な支援制度の利用を呼び掛けている。

自己点検・自己評価総括表

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0

①課題

すべての評価項目で「適切」と評価された。

②今後の改善方策

大きな課題は見受けられないが、学園経理財務室と連携し引き続き適切に対応する。

③特記事項

学園理事会・評議委員会において承認された予算計画に基づいて学校運営を行っている。年4回開催される学園理事会・評議委員会において学校運営状況を適時報告し、予算計画の実施状況、収支状況を確認している。当学園は借入金のない安定した財務状況であり、入学者に寄付金を求めたり学債の購入を依頼することはない。

物品購入に際しては見積書取得、稟議書作成など徹底している。定期的に会計監査、税務監査によってこれら手続きが適正に行われているか確認を受けている。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規定を整備し、利害関係人が閲覧できるように情報公開の場を設けている。学校自己点検評価は適切に行われており、その結果についてはホームページにおいて公開している。

予算管理、収支計画、会計監査などは学園経理財務室と連携して適切に対応している。

自己点検・自己評価総括表

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0

①課題

評価項目はすべて「適切」と評価された。この結果に満足することなく学校法人立専修学校として引き続き法令遵守に努める。

②今後の改善方策

学校法人名古屋大原学園の教職員としての誇りと自覚を持ち、校長が先頭に立って法令遵守に努める。

③特記事項

学園学校計画書の冒頭で「国民からの期待と教育者の使命」として学校教育法の前文、第一条(教育の目的)を掲げており、全教職員に対して教育者としての使命を心得てるよう啓蒙し、誇りと情熱をもって教育に当たるよう努めている。法令遵守もこの一環として実行している。

施設・設備などは専修学校設置基準を遵守した内容になっており、授業時間、授業日数、教育課程編成も基準を満たしている。

学園では数多くの学生個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく「個人情報保護規則」を整備し適切な取り扱いを図っている。

毎年度末に全教職員による自己点検・自己評価を実施している。評価項目に対して「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の判定を行い、特に「やや不適切」「不適切」と評価された項目について職員会議で内容を検討している。情報不足による勘違いや錯誤ではなく実際に改善が必要と判断した場合は具体的な改善策を講じて実行している。

自己点検・自己評価結果は総括して学校ホームページ上で公開している。さらに自己点検・自己評価の結果は学校関係者評価委員会に報告し、関係者による評価を受けている。

自己点検・自己評価総括表

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。今年度も引き続き「②学生のボランティア活動」の奨励支援を強化を継続する。

②今後の改善方策

従来から学校に対してボランティア要請があった場合、その情報を学生に提供し参加を促していた。このような受け身のボランティアだけでなく、ボランティア募集情報を積極的に収集し、学生が多くのボランティア情報に接する機会を準備する。また学生自身が主体となって運営するボランティアイベントを企画する。

名古屋駅周辺は新しい大型ビルが開業し、新しいホテルやレストラン、結婚式場が次々にオープンするなど街全体が生まれ変わりつつある。このような環境の中で集客イベントの提案、地元商店街の活性化提案など、教育成果を社会や地域に還元するような仕組みづくりを研究する。

③特記事項

学内施設と教育ノウハウを活用し、社会人や大学生に対して資格取得講座を開講している。これは専門課程の授業が行われない平日夜間や週末を利用した「附帯教育」として実施しており、資格取得や就職転職を目指す方々をサポートしている。

各分野の専門家を招いて開催する「実務家講演会」、名古屋大原学園学園長主催による「人間学読書会」、地元商店街と連携したボランティア活動などを展開している。

自己点検・自己評価総括表

(11). 国際交流

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	6	0	0
②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	8	0	0

①課題

外国人留学生向けの募集要項を毎年制作し配布しているが、入学者数は僅かである。これは国家資格の受験対策には高度な日本語読み書き能力が必要であり、片言の日本語会話ができる程度では授業内容が理解できないためである。日本の滞在ビザ取得を目的とした入学問い合わせは多数あるが、実際の授業内容を説明するとほとんどのケースで入学には至らない。

国際化が進む現在、学内に多数の留学生が在籍するキャンパスは日本人学生にとっては刺激を受ける好環境になりそうである。ただ学習には高度な日本語能力が必要になるため、実際の留学生入学者は少ない状況にある。

学校ホームページを通して資格合格状況、合格率、就職内定状況、内定率などを詳しく公開しているが、すべて日本語表記であり、国外に対する情報発信は行っていない。従って国外で評価される仕組みは現状では無い。

②今後の改善方策

外国人留学生を安易に大量入学させる方針ではないので、当面この状況は変わらない。ただ、近隣の日本語学校に在籍する外国人留学生との交流プログラムを実施したところ、双方の学生に学習メリットが多いことが確認できた。当校学生の異文化理解や語学学習のきっかけになることを期待して今後も継続する。

③特記事項

外国人留学生の入学に際しては必要書類(母国最終学校の成績証明書、日本語学校の成績証明書、在留カードなど)を厳重に確認し、入学後においては入国管理局等関係当局への定期報告を適切に行っている。

海外研修旅行を充実させる計画は進行中である。そのためにマルチリンガル能力、海外行動能力を高めるカリキュラムを実践している。学校としては卒業後は海外出張や海外赴任を難なくこなせる国際人育成を目指している。